会議名等	平成 30 年度 第 3 回海老名市子ども・子育て会議
日 時	平成 30 年 12 月 19 日 (水) 10:00~12:00
場 所	えびなこどもセンター201 会議室
出席者	<p>委 員：鍛冶 邦彦 委員長、梅崎 玲子 副委員長、篠原 俊正 委員、小島 良之 委員、山田 由美子 委員、木村 伸之 委員、柳瀬 路子 委員、白倉 博子 委員、亀澤 ますみ 委員、難波 光子 委員、亀谷 香 委員、畔上 由紀 委員、渡部 理子 委員</p> <p>(欠席：櫻井 篤 委員、櫻井 慶一郎委員)</p> <p>事務局：保健福祉部次長 (子育て担当) 小澤 孝夫、参事兼こども育成課長 告原 幸治、こども政策係主査 尾内 速斗、主任主事 林健太、保育・幼稚園課長 安齊 浩史、子育て相談課長 金指 芳子、学び支援課長 小林 誠</p>
1 開会	
2 議題	
	【報告事項】学童保育クラブの開設について
① 報告内容	(事務局) 別紙資料 1 に基づき事務局から説明した。
② 質疑応答	特になし
	【審議事項】特定教育・保育施設の定員設定について
① 審議内容	(事務局) 別紙資料 2 に基づき事務局から説明した。
② 質疑応答	<p>(委 員) 総数は変更なしということか。</p> <p>(事務局) 270 名の園であり、保育園部分が 200 名、幼稚園部分が 70 名である。</p> <p>(委 員) 受け入れの人数が拡大するわけではないということか。</p> <p>(事務局) 変更はない。</p>
③ 審議結果	審議事項について了承を得られた。
	【審議事項】第 2 期計画のスケジュールの見直し
① 審議内容	(事務局) 別紙資料 3 に基づき事務局から説明した。

② 質疑応答
特になし

③ 審議結果
審議事項について了承を得られた。

【審議事項】第2期計画の第1期計画の評価・検証方法について

① 審議内容
(事務局) 別紙資料4に基づき事務局から説明した。

② 質疑応答
特になし

③ 審議結果
審議事項について了承を得られた

【審議事項】第2期計画のニーズ調査(案)について

① 審議内容
(事務局) 別紙資料5、当日配布資料に基づき就学前調査票について事務局から説明した。

② 質疑応答
(委員) アンケート内容ではないが、表紙の「いただいたご回答は、地域の子育て支援の充実に生かされます。ぜひご回答いただきますよう、お願いします。」とあるが圧迫感や強制的な感じを受けた。ご回答が2回続いたため、2行目を「あなたの育児について教えてください」や「あなたの声が必要です」など、あなたという言葉が入ると良い。この2行を読んで他人事のような気がしてしまう。低姿勢な文章が入っていれば書く気になると思う。あなたという言葉を使うことで、私のことだと感じると思う。イラスト等が入っていないので、子どものいる家庭に配布をするため、表紙にえび〜にゃのぬり絵などがあると、子どもも喜ぶし、親もこんなサービスがついてきたと喜んで、書くのではないかと。2ページ目の問2で対象のお子さんの生年月だが、西暦でもよいと思う。

(事務局) 表紙の文言は「あなた」という言葉を入れるよう修正する。ぬり絵も挿入できるよう調整する。生年月は西暦で回答いただけるように設問を修正する。

(委員) 前回の時にアンケートを書いたが、これをやる時は子どもを寝かせた後でやる。ペーパーだけか。紙媒体でのアンケートだと思うが、今後はWEBでという考えはあるか。若い母親はネット回答してもらったほうが、回答率が上がるのではないかと。

(事務局) アンケートについては年間、市で2、3種類実施している。えびなメールでイベント等でのアンケートをとるが、設問数が少なく、まだニーズ調査のような設問数の多いものまで

はやれていない。今回は予算も含め、そこまではできないが、今後にはぜひ取り組んでいくべきことだと思う。

(委員) WEBアンケートをしないにしても、センターの利用者の声などを反映していくというところでよいか。

(事務局) 直接生の声を聞くことは設けていないが、健診や予防接種等を実施しているため、そうした際の声や本庁の他部署の声なども反映していきたい。

(委員) 今の働いているお母さんはやる時間がないため、スマホでやれると良い。出さない人もいる。新聞で横浜市のことが載っていたが、全区で座談会のような形で生の声を聞いている。海老名市でもやれるといいのではないかと思う。

(事務局) 座談会についてもやれるにこしたことはないが、会場設定を含め地域の方の力を借りなければなかなかできない。市長のタウンミーティングを年1回実施している。それらの中で子育てに関する意見ができれば、情報収集をさせていただいている。また、各所管に直接入っている意見を具体的にもらっている。

(委員) 座談会まではできるかわからないが、アンテナを広く持つという事をお願いしたい。

(事務局) 今回、未就学児の調査票が6000通程度になる。前回の回収率が57%程度である。一般的に統計学で有効な数字は1000程度であれば、精度的に満たしているということになる。前回同様の回収率であれば4000程度になる。回収率を上げなければいけないが、よりあがる方法があれば、積極的に取り入れた上でニーズ調査を実施していきたい。

(委員) 問18の教育・保育の無償化について、方向は出たけれども財源の問題も含めいろいろ決まる前にニーズ調査を配ることに疑問がある。海老名市の見解も含め教えてほしい。

(事務局) 来年10月、消費税が8%から10%に上がる。主に3～5歳の保育園、幼稚園の無償化、0～2の非課税世帯の無償化が進められている。市町村においても情報が入ってこない状況である。全国市長会、知事会、町村会から全額国費として求めているところであったが、12月に入って国と地方の協議の場で、平成31年度は全額国費負担、平成32年度は国が2分の1、県・市が4分の1の負担割合で折り合いがついたところである。今後、保護者や園の事業者の説明が必要がある。それ以外に無償化については、認可外保育園、ファミサポ、障害施設等も無償化が進められている。それぞれ上限額が変わってくる。未定の部分も多く、話できる部分が少ない状態である。ニーズ調査を作成するにあたって、8月に国からも無償化の設問を設けるような指針が出ており、こうした内容を踏まえ調査を実施すると、保育ニーズが変わるかもしれない。なるべく正しいニーズ量を捉えるためにも無償化を踏まえたということで設定している。

(委員) 8ページの点線の3行について、この表現でいいのか。無償になる方向ということを入れて文面を整理する必要があると思う。

(事務局) 実際に無償化となった場合に、教育、保育の事業を利用したいかという表現に変えさせていただく。

(委員) 問4について新しく、追加した部分だがどういった意図か。ここまでプライバシーに立ち入る必要があるのかと思う。

(事務局) 住まいの状況だが、今、こども育成課の事業として、ひとり親家庭の家賃助成を実施している。この内容はひとり親の方が、賃貸住宅に住んでいる場合、家賃助成をするものである。こういった事業の中で、子育て世帯のうち持ち家、賃貸に住んでいるのかということ

が市として見えていないため、このニーズ調査を期に一定の数を把握できればと思う。

(委員) 問30について、①朝食、②夕食だが、在宅のお子さんもいるため、昼食があったほうが良いのではないかと。また、問35の自由記載欄が少ないと思う。

(事務局) 昼食を入れる方向で修正する。

(委員) 就学児前の問25就学後の放課後の過ごし方については、前回の調査は、上の子が対象であり、5歳のみでの回答であった。2、3歳児の子どもに対してはあまりにも飛びすぎた問いであると思う。下の子が対象になった場合、5歳以上の子どもがどれだけ対象になるか不安である。問28の妊娠中の問のなかに、産後という言葉があり、修正していただければと思う。

(事務局) 前回の調査では、放課後の過ごし方については5歳児に絞ってやっている。今回、複数児童がいる場合は下のお子さんを対象としている。0—2歳の対象の子どもの場合は、5年後ということで、大分、後になってしまうが、前回同様に5歳児に絞るか、一方で、対象の5歳児がどれくらいいるかという不安もある。今のままであれば一旦全員が答えていただければ。兄弟・姉妹がいる場合は、上の子を想像しながら下の子の想定をできるのではないかと考えている。問28の産後については削除する。

(委員) 学童的には、今回のニーズ調査案は学童のことがたくさんっており、資料的には良かったと認識している。

(委員) 内容的に何時から何時まで利用したいかを聞く必要があるのか。小さい子を対象とすると学童があるかどうかとも知らない方もいるかもしれない。

(事務局) どこまでの回答がもらえるかという部分はあるが、学童保育は増え続けているため、可能な限りニーズを把握したい。夜であればどれくらいの希望があるのかなどを把握したい。

(委員) 問28の選択肢に子育て中の交流とあるが、妊婦さん同士の交流にしてはどうか。

(事務局) 妊婦の方同士に変えさせていただく。

(委員) 住んでいる場所や年収、住まいなどの設問があるが意図の説明をお願いしたい。

(事務局) プライバシーについては返信用封筒でお返しいただく。無記名での回答となっているため、回答者を特定できないようになっている。また、市に返信していただくため個人情報の管理をしっかりできる。書く人の気持ちからすると書きにくいということも理解している。問4について、住宅政策については、子育て世代の動向を市として掴めていない部分もあり、この機会にこの設問により、子育て支援として、衣食住の住という部分を把握し、次回の調査もあれば経年での比較も考えている。具体的に何をやるからとるという部分は現状としてはないが、経年変化を見ながら今後力を入れていくべきかなどを考えさせていただくためにとらせていただければと思う。辛らつなのは問31で収入を聞いている。内部でも議論をした。幼児教育の無償化の中でも、意向が動いた人の収入などを分析させていただきたいという部分と、今回2期目の計画ということで、子どもの貧困対策について考えていく中では、この収入世帯の方がどういった意見をもっているかを把握したい。この設問を入れたばかりに、回答をいただけないという危険性も分かっている部分ではあるが、あえていれさせていただいた。審議の内容を踏まえいれるかどうかを検討したい。

(委員) ここに一言、書きたくなければ結構ですということを書いてはどうか。この調査はすべて回答をしていないと、データとして意味のないものになるのか。無回答の部分があっても、使えるのであれば、表紙に一言、答えたくないものは答えなく手も結構ですということが

書いてあればよいと思う。

(委員) この設問は必要だと思っている。貧困対策ということで、先行的に調査をやっているところもあるが、一番データのベースになると思う。計画の基本目標、基本施策のことを考えるとないがしろにはできない。そのためには、興味本位ではなく、分析調査をしていくためにも必要だと思う。例えば、わからない部分は書かなくてもよいとしたほうがよいのか、適当に書いてもらうというよりも直感的に書いたほうがよいのか事務局に伺いたい。

(事務局) 一概に直感が良い、熟慮してもらうという部分が良いというわけではないが、1000人程度は有効な回答としてほしいため、無回答が多くなるとその設問としては少なくなる。答えづらい部分についてはという文言を入れる場合もあるが、問31の上に記載してしまうと問31の無回答が多くなることも考えられるため、表紙等に記載したほうが良いと思われる。

(委員) どこに書くかは、お任せし、答えやすいものにしていただく。

(委員) 就学児前と小学生の間10は内容が違うがよいか。就学前に放課後の過ごし方を聞くのであれば、放課後児童クラブに期待する事を聞いても良いのではないか。

(事務局) 就学児前のものをベースに、不登校等の部分も含め、小学生用に修正する。小学生用として必要でないものもあるため、再度検討させていただく。

(委員) 潜在的ニーズの掘り起こしになるかもしれないが、私どもの女性社員は待機児童で登録した人はいない。待機児童だけでは、保育所や学童に預けて働きたいと思っている人のニーズがつかめるのか。クロス集計で浮き彫りになってくるのか。無償化もそうだが、無償化の対象になれば預けたいと思うか、学童が近くにあれば預けて働きたいと思うかなど、実態的な部分が多いため、そこから浮き彫りになってくるのかと思う。

(事務局) 必要量として反映すると、実際との開きが大きくなってしまう。海老名市の場合は保育園も幼稚園もほとんど民間の力を借りて子育て支援をやっている状況である。施設整備が供給過多になってしまうことは避けなければいけないと思っている。実態を見越して、プラスアルファをどこまで見込むのかということアンケートで把握し、先ほどの話にもあったが、評価として第1期の計画の実績とのバランスをみるため、そのあたりも見越した中で供給量を提示させていただくため、その中で不足だという事であれば、忌憚のない意見をいただければと思う。

③審議結果

審議事項について了承を得られた。